

水質調査とは“生命の源”である
水源の水質を監視する業務です。

いのち
も
「生命の源のお守り」

と心に刻み、地域の方が大切に
してきたこの自然を守りたい。
そんな思いで働いている方を
紹介します。

株式会社
四電技術コンサルタント

すえつぐ
末次

あや
綾さん

シリーズ☆働く現場から
第22弾 河辺川外採水分析業務（前編）

採水分析業務の**目的**はなんですか

1つめは、鹿野川ダム貯水池の水質に異常がないかの監視です。
水面だけでなく、さまざまな深さから採水し、分析をしています。



3つめは、山鳥坂ダム建設に関わる河辺川の水質のモニタリング（経過観察）です。
山鳥坂ダムの完成後、河辺川の水質にどのような変化があるのかを確認できるように調べています。

2つめは、鹿野川ダム改造事業により設置した水質改善施設による効果のモニタリング（経過観察）です。

これは鹿野川ダムにおいて特有な調査で、こ

こで収集したデータは水質保全に向けた取り組みの土台となっています。



その他にも、非常時の重要な役割として、油や

化学物質の流出等、水質事故が発生した時に緊急時調査を行います。



採水分析業務とは

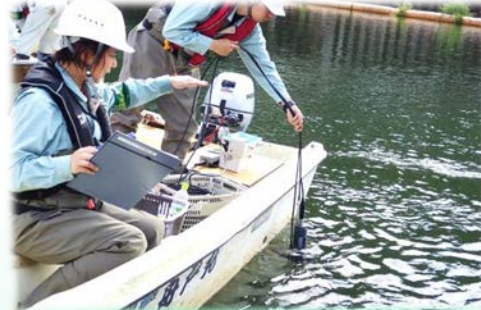
1年を通しての鹿野川ダム貯水池や河辺川の水質を分析する業務です。

調査にあたっては採水だけでなく、天候、気温、水温等の現地での観測と、底泥の採取、室内での分析なども行っています。

調査場所は13地点あり、そこで採取した水を分析し結果を取りまとめています。

特に、外観や臭い、測定した値が異常でないかに注意しており、異常が確認されれば速やかに報告・対応の提案をしています。





女性技術者だからこそ

採水作業は現場作業であるため、体力的にデメリットと思うこともありませんが、容量の少ない※バンドーン採水器を使用したり、水を入れる容器を小分けにして運んだり、自分に合った方法で作業をしています。

また、女性ならではの目線で作業効率アップを狙った技術的工夫は、働きやすい場をつくる為の気配りだと考えます。「女性であること」を生かしてこれからも地域の方達のお役にたてるよう日々の業務を精いっぱい行っていきます。



※ バンドーン採水器

目的とする深さで水を採取する。筒の中に水が入ると約15キロにもなる。小さいサイズは約8キロ。



本インタビューでは、鹿野川ダム貯水池と

河辺川の採水作業に同行させていただきました。一言で「採水」と言っても、ダム貯水池と河川とは採水方法や道具も違い、それぞれの特性にあった調査項目があることに驚きました。

また、水上で作業するだけでも大変なうえに、暑さや重量が加わると女性として大変な作業だと感じました。そんな中、真剣に作業し笑顔で説明していただいた末次さんがとてもかっこよく思え、見習いたいと思いました。

暑い中、丁寧に説明していただきありがとうございました。

総務課 期間業務職員 原井川

後半では、採水・分析の方法や道具について詳しく紹介していきます。

